

平成27年度全国学力・学習状況調査 (H27.4.21実施)

1 全国学力・学習状況調査の実施状況について

(1) 調査の目的

ア 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

イ 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

ウ そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

(2) 調査の対象

小学校第6学年、特別支援学校小学部第6学年

中学校第3学年、中等教育学校第3学年、特別支援学校中学部第3学年
の全児童生徒

(3) 調査内容

○ 教科に関する調査（国語、算数・数学、理科）

※ 主として「知識」に関する問題（A）

※ 主として「活用」に関する問題（B）

○ 生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査

※ 児童生徒に対する調査

※ 学校に対する調査

2 伊方町における調査結果の公表について

(1) 公表の趣旨

学力や学習状況の調査結果について、学校・家庭・地域のみんながその情報を共有し、学力向上のためにどうしていけばよいかを検討して指導改善等に取り組んでいく。

(2) 留意事項

ア 「9年間の学びを見通した教育の創造」の町統一テーマの下、小学校・中学校の連携による取組を重視する。

各中学校区ごとの地域を一体的にとらえて取り組む。

イ 教科に関する調査や児童生徒質問紙調査は、レーダーチャート等で表示し、実態把握や分析、改善策を検討していく。

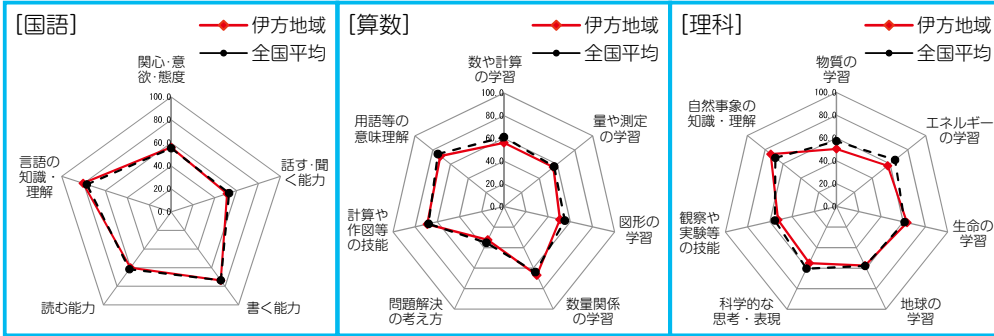
ウ 点数等の数値表示、一覧表の作成、順位づけはしない。

平成27年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【伊方地域】

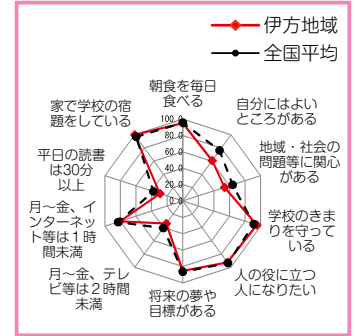
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査
（全国の平均回答率との比較：肯定的回答）

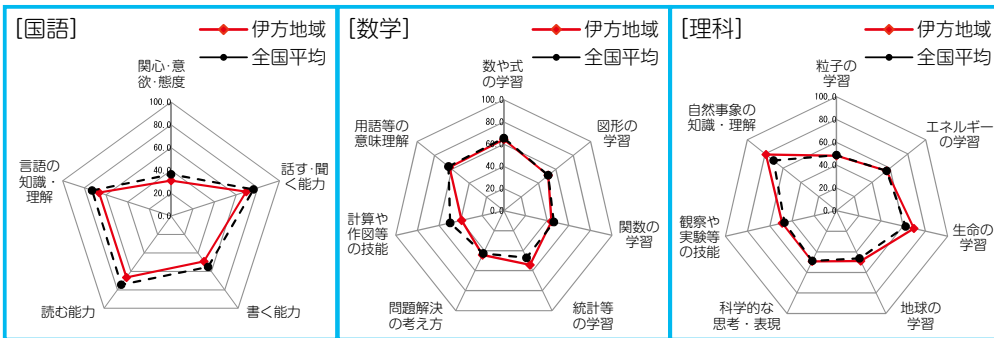
<小学校>



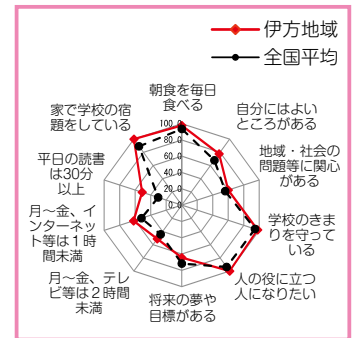
<小学校>



<中学校>



<中学校>



結果の分析

≪小学校≫

- 国語、算数、理科ともに、全国平均とほぼ同じ傾向にある。理科は自然現象の知識・理解の項目は概ね上回っているが、物質の学習、エネルギーの学習の項目に課題が見られる。
- 児童質問紙調査では、「自分にはよいところがある」「地域・社会の問題等に関心がある」と回答した児童は全国平均より低い。

≪中学校≫

- 国語は、どの項目も全国平均よりやや低く、課題が見られる。
- 数学については、全国平均とほぼ同じである。統計等の学習は良好であるが計算や作図等の技能に課題が見られる。
- 理科は、全国平均とほぼ同じか、項目によって上回っている。
- 生徒質問紙調査では、ほとんどの項目で肯定的な回答が全国平均を上回っている。

改善方針

≪小学校≫

- 基礎的・基本的な学力の向上を図るための指導を行う。
- 自尊感情を高める指導、地域や社会の問題に関心をもたせる指導の充実を図る。

≪中学校≫

- 国語の読解力に重点を置いた指導をする。
- キャリア教育の充実に努める。

≪小中共通≫

- 言語活動の充実に努め、特に国語の「読む能力・書く能力」の育成を図る。
- 学力差の解消に努め、個に応じた指導・支援の充実を図る。
- 家庭と連携して、学習習慣や生活習慣の改善に努める。

具体的な取組

≪小学校≫

- めあてを明確にし、学習を振り返る時間を計画的に取り入れる。
- 既習事項の定着を図るための時間を確保し、反復学習等を行う。
- 学校・家庭・地域が連携し、日常生活の中で一人一人が大切にされ、互いに認め合える場を多く設定する。

≪中学校≫

- 各教科で読み取り問題等を重点的に取り上げる。
- 将来の進路について具体的に考えたり体験したりする機会の充実を図る。

≪小中共通≫

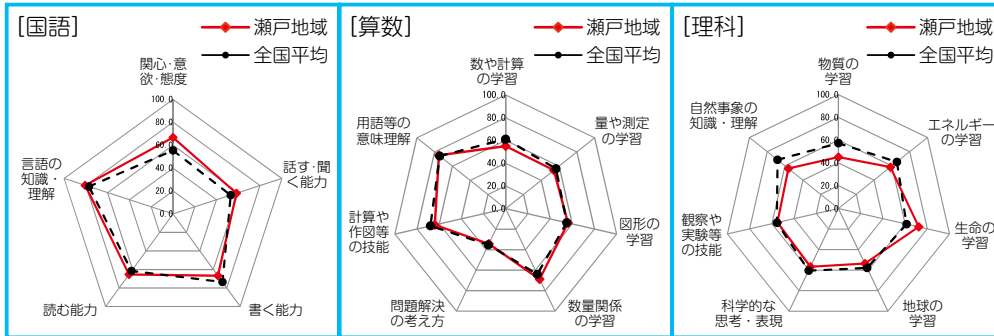
- 読書量を増やし、読解力の向上に努める。
- 習熟度別学習やワークシート等の工夫をし、個に応じた手立てを講じる。
- 家庭と連携して、ノーゲームデー等の取組を充実させ、家庭学習や読書の時間を確保する。

平成27年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【瀬戸地域】

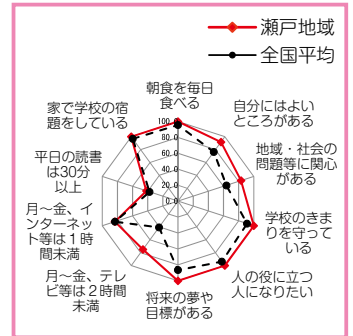
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査
（全国の平均回答率との比較：肯定的な回答）

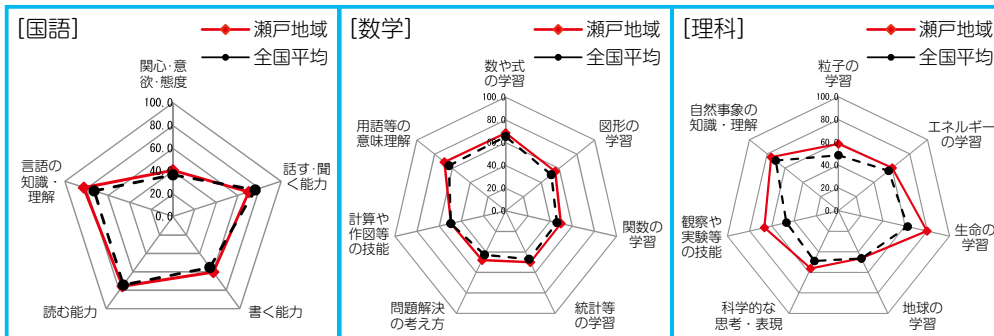
<小学校>



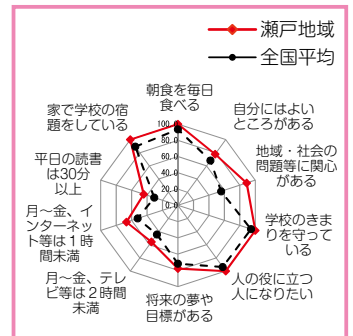
<小学校>



<中学校>



<中学校>



結果の分析

≪小学校≫

- 国語においては、ほとんどの項目で正答率が全国平均を上回っている。昨年度から、自分の考えを書く活動を意図的に取り入れて学習を行ってきたが、「書く能力」の正答率が全国平均を下回っており、今後の課題である。算数においては、7項目中4項目で正答率が全国平均を下回っている。特に、「数や計算の学習」が課題である。理科においては、ほとんどの項目で正答率が全国平均を下回っている。基礎・基本の定着を図る必要がある。
- 生活面では、全項目で肯定的な回答が全国平均を上回っている。

≪中学校≫

- 国語、数学、理科ともに、ほとんどの項目で正答率が全国平均を上回っている。各教科とも、小テストを実施することによって基礎・基本の定着が図られた結果と思われる。しかし、国語の「話す・聞く能力」については、全国平均をやや下回っており、今後の課題である。
- 生活面では、全項目で肯定的な回答が全国平均を上回っている。昨年度の課題であった「読書」の項目は大幅に改善された。昨年度からの取組の成果が出たと思われる。

具体的な取組

≪小学校≫

- 読書を奨励し多様な文章に触れさせることで語彙力を高め、読解力を育成する。また、授業の中で、キーワードを使ってまとめる活動やテーマを設定して自分の考えを書いたり話したりする活動を行い、思考力や表現力を高める。

≪中学校≫

- 各教科で、毎時間小テストを実施し基礎・基本の定着を図り、知識・理解を深める。また、月平均3冊の読書を奨励し語彙力を伸ばすとともに、授業では分かったことを文章等でまとめる活動を行い思考力を育成したり、少人数での話し合い活動でマニュアルを活用するなど充実を図り、「話す・聞く能力」を高める。

≪小中共通≫

- 各教科において、一人一人の課題を明確にし、基礎・基本の定着を図るための個別指導及びドリル学習・補充学習を充実させる。
- 家庭学習の手引や家庭生活振り返りカードを活用することによって、家庭での学習時間や過ごし方を把握し指導に生かすとともに、保護者との連携を密にして、余暇の有意義な過ごし方等、望ましい生活習慣の定着を図る。

改善方針

≪小学校≫

- ねらいを明確にした「分かる」授業を展開し、思考力や表現力を育成するための指導方法を工夫する。また、基礎・基本の定着を図るための個別指導やドリル学習を計画的に実施する。

≪中学校≫

- 授業中に分かったことを書く活動を充実させ思考力を育成するとともに、小集団での話し合い活動を充実させる。また、少人数のよさを生かし、個別学習や個を伸ばす取組を充実させる。

≪小中共通≫

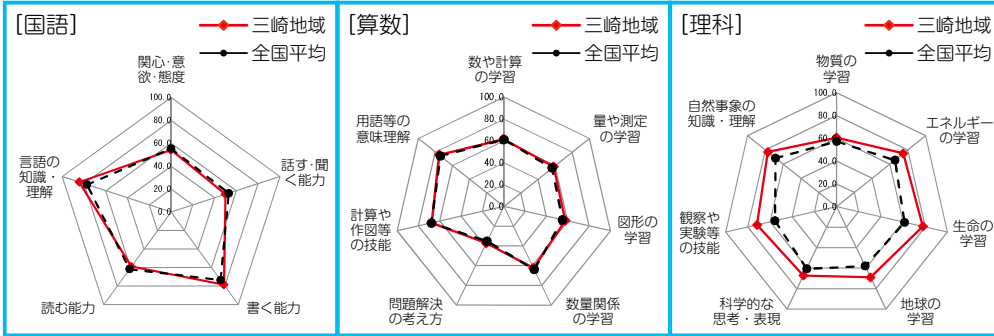
- 生活面で、保護者との連携を図り、家庭での過ごし方を考えさせ、望ましい生活習慣や学習習慣を身に付けさせていく。

平成27年度全国学力・学習状況調査における調査結果 【三崎地域】

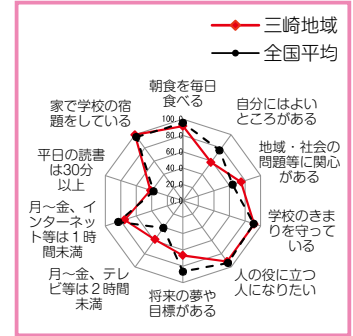
○教科に関する調査（全国の平均正答率との比較）

○児童生徒質問紙調査
（全国の平均回答率との比較：肯定的回答）

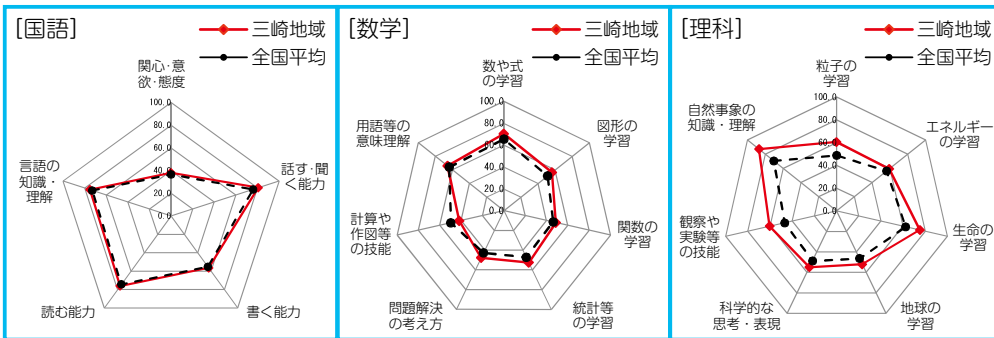
<小学校>



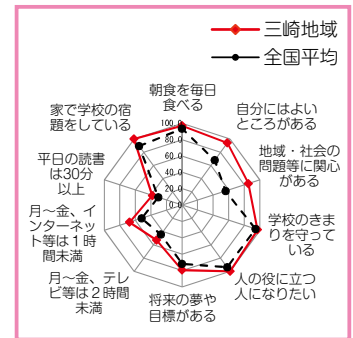
<小学校>



<中学校>



<中学校>



結果の分析

≪小学校≫

- 国語では、「言語の知識・理解」において全国平均を上回り、他の項目と算数は、全国平均とほぼ同程度である。理科においては、全項目で、全国平均を大きく上回っている。課題としては、国語科の「話す・聞く能力」が挙げられる。
- 生活面においては、ほとんどの項目において全国平均より高くなっているが、「自尊感情」と「将来の夢や目標をもっている」割合が低い。

≪中学校≫

- 国語と数学の正答率は、全体的に全国平均と同程度であるが、数学の「計算や作図の技能」について若干低い結果である。
- 理科の正答率は、全体的に全国平均を上回っている。
- 生徒質問紙調査によるとすべての項目で肯定的な回答が全国平均を上回っている。

具体的な取組

≪小学校≫

- 文章理解力を高めるための各種プリント等の活用、漢字力、語彙力の育成を目指したドリル学習を継続する。また、授業の中で自分の考えを文章化する活動を多く取り入れることにより、思考力・表現力を高める。
- 生活（家庭学習）リズムチェック表を活用し、家庭学習の状況を把握して一人一人に合った助言を与え、学習内容の充実を図る。

≪中学校≫

- 5教科における基礎定着テスト（小テスト）を計画的かつ継続して行うとともに、家庭学習の習慣化を図る。
- 電子黒板（デジタル教材）の活用や学習形態の工夫により、楽しく分かる授業、個別指導の充実を図る。
- 図書委員会を中心に読書の呼び掛けを行い、本に対する興味・関心を高める。

≪小中共通≫

- テレビやインターネット等の時間の削減に向け、家庭学習の手引きをさらに活用する。
- 道徳の時間や児童会・生徒会活動等の取組を通して、児童生徒一人一人の自尊感情を高める。

改善方針

≪小学校≫

- 読解力を高めるための個に応じた指導の充実と、児童が見通しをもって学習展開できる授業を継続する。
- 豊かな体験を積み重ねていく中で自信をもたせ、自分を大切にすることだけでなく、人への思いやりをもつことができるようにする。

≪中学校≫

- 個別指導の充実により、基礎・基本の定着を図る。
- 読書指導の充実を図る。

≪小中共通≫

- 望ましい生活習慣の確立に向けて、保護者との連携を強化する。
- 自尊感情を高めるための取組を見直し、幅広いものにしていく。